

． まとめ

平成 14 年度において、名古屋大学、京都大学、及び九州大学の三つの研究機関の研究室がスーパーSINET 接続され、核融合科学研究所に設置された L H D 装置の実験データを、研究室から直接、実時間で収集・解析することが可能となった。それぞれの遠隔計測システムは第 6 サイクル L H D 実験（平成 14 年 10 月～平成 15 年 2 月）に適用され、有効性が実証されると共に、これらの研究室の研究者の L H D 遠隔実験参画が実現した。

平成 13 年度において核融合科学研究所・低温実験棟の実験ネットワークにスーパーSINET 接続された、東京大学高温プラズマ研究センターの超伝導コイルを用いたプラズマ装置実験に対して、超伝導実験遠隔制御システムが稼働を開始し、核融合科学研究所の研究者の遠隔実験参加が実現した。この結果は、スーパーSINET を使った双方向性大学間共同研究という、大学の法人化後の共同研究の新しい展開を示唆するものとして注目されつつある。

スーパーSINET を利用して、全国大学共同利用機関である核融合科学研究所に設置された大型核融合装置実験に、大学の研究室から直接参画可能になることの波及効果は大きいと思われる。特に、大学院学生の教育に対するその効果を指摘する声が、はやくも数名の研究室指導教官から出始めている。当該分野の研究を志望する若い研究者の増加に繋がることも期待できる。今後、当該分野で研究活動し、遠隔参画を希望している他の大学の研究室に対して、計画的に同様の展開を計って行く必要がある。

核融合研究班のもう一つの研究プロジェクトである、核融合科学研究所のスーパーコンピュータを使用する「大規模プラズマシミュレーション研究」は、数件の研究計画が提案されているが平成 14 年度はスーパーコンピュータとネットワークとの接続環境の不調整も有り、実現出来なかった。次年度には進展を計る予定である。